

## 保育士と子どもの関係発達

### —社会性の発達に配慮が必要と思われる子どもとのかかわり—

Development of relationships between nursery teacher and child  
who may need care in social development

鷲尾 昌子  
Masako Washio

大妻女子大学大学院 人間文化研究科 人間生活科学専攻 保育・教育学専修 修士課程

キーワード：保育士，社会性，関係発達

Key words : Nursery teacher, Sociality, Relationship development

#### 1. 研究目的

保育所に通う「目が合わない」「声をかけてもこちらを見ない」など社会性の発達に配慮が必要と思われる子どもに対し、保育士はどのようにかかわっていけばよいのだろうか。ここでは、保育士がかかわりを持ちにくいと思う自閉的傾向のある子どもに焦点を当てて考えてみたい。

滝川 (2017) は、社会性の発達とは、周りの人たちと対人的・社会的にかかわっていく関係の発達であると述べる。かかわりが持ちにくいと思われる子どもたちでも、交流への志向性が決してゼロではなく、平均よりずっと弱いが、おとなへの興味や接近のサインを示している。それをキャッチしてそっと応答を返すことが交流性を育むポイントとなると述べている。

ロゴフ (2006) は、発達を社会文化的視点で捉え、「導かれた参加」という概念を提唱している。それは、子どもたちがさまざまな形で文化コミュニティの実践、価値観、技能に参加して導かれて発達する。さらに、参加のしかたの変容を通して発達していくことを意味する。

これらを踏まえると、自閉的傾向のある子どもに対し、保育士は個の能力を伸ばすために特別なことをして遅れを取り戻そうとするのではなく、少しでも交流する相手として、子どもの体験を豊かにし社会性の発達を支えることが必要である。具体的には、互いの感覚や行為を共有したり、参照し合ったりすることを通して、子どもが保育士の誘いに導かれていく、というようなプロセスが重要になるといえる。

鯨岡 (2016) は、保育の営みは子どもと保育者と保護者で繰り広げられる豊かな関係発達の様子によって示されると述べる。

角田ら (2012) は、自閉的傾向の幼児が、保育者の橋渡し機能を媒介にして、他児との間で間主観的な意識体験をもつ機会を徐々に増やし、両者が育ち合う経過を示している。

このように、保育所においては様々な対人関係が存在している。その中で、特定の保育士が、先述したようなプロセスで子どもとの関係を築くことが、他の関係発達へ繋がる基盤になると考える。

狗巻 (2013) は、保育者の自閉症幼児へのはたらきかけに着目した。対象児の「受容」反応が多いものは①手段「モノを用いたはたらきかけ」「身体的接近・接触」②形態「維持」「発展」であること。そして、「受容以外」(無視や拒否)の反応を示した形態が「転換」であることを明らかにした。さらに、共同注意の発達に応じて保育者のはたらきかけ方に質的な差異が見られることも明らかにした。しかし、保育者からのはたらきかけと自閉症児の反応に焦点が絞られ、子どもからのはたらきかけなどを含む相互交流(共有や応答)は検討されていない。また、保育者が、子どもの反応を引き出すはたらきかけをどの程度意識していたか、保育者のはたらきかけの意図やねらいについて明らかにされていない。

そこで、本研究では、保育士が子どもに戸惑いながらも向き合い、試行錯誤しながらかわ

りを持ち続けることで関係性が変容することを「保育士と子どもの関係発達」として分析し、そのプロセスの特徴を一事例を通して検討することを目的とする。

関係発達の特徴を明らかにすることで、社会性の発達に配慮が必要と思われる子どもを保育所で保育士がどのように支えていくか、その関係発達を促す要因を検討することができると考える。

## 2. 研究実施内容

### 研究方法

**研究協力者：**男児 A (観察期間 2 歳 10 か月～3 歳 9 か月) と担当保育士 B (以下、保育士 B と称す) とする。A は 2 歳 10 か月の時に保育所に入所する。1 歳児半健診で言葉の遅れを指摘された。発達外来では半年から 1 歳の遅れと言われ、自閉的傾向があるため療育にも通い様子を見ることになる。入園当初は、思い通りにならないと癇癪を起し、寝転がって自分の頭をたたく等の行為が見られた。一方、保育士 B は、20 年以上の保育士歴を持つ。

**分析の対象となるデータ：**①絵本の映像 3 回分 (入園当初とその数か月後、年度末で、それぞれ以下、I 期・II 期・III 期とする) ②絵本の映像 3 回分に合わせて聴取した保育士 B への半構造化面接によるインタビュー結果 (振り返りや気づき)

**分析方法：**①A と保育士 B のやり取りを行動コーディングシステム (DHK 社) を用いて分析する。分類する行動カテゴリーについては、視線・非言語・感情・言語各 16 項目 (高橋 2022) を使用する (表 1)。②インタビュー結果を文字起こししたものを、その内容の変化が捉えやすいよう時系列に整理して、特徴を抽出する。

**倫理的配慮：**本研究におけるデータの収集とその取扱いについては、対象となる子どもの保護者と保育士、施設長の同意を得た。その上で、大妻女子大学生命科学研究倫理委員会より承認 (受付番号 03-022) を受け、研究を実施した。

表 1. 保育士と子どもの行動カテゴリーと行為

カテゴリー	子		カテゴリー	保育士	
	1	2		17	18
1 視線	1	どこか見る	1 視線	17	操作対象を見る
	2	操作対象を見る		18	子を見る
	3	保育士を見る		19	対象を操作する
2 非言語	4	対象を操作する	2 非言語	20	注意を引く・促す
	5	注意を引く・促す		21	頷く
	6	頷く		22	首を傾げる
	7	首を傾げる		23	首を横にふる
	8	首を横にふる		24	子に触れる
	9	保育士に触れる		25	笑う
3 感情	10	泣く	3 感情	26	不機嫌になる
	11	笑う		27	質問する (これなに?)
	12	不機嫌になる		28	事実確認 (～でしょ)
4 言語	13	質問する (これなに?)	4 言語	29	指摘 (こうだよ・違うよ)
	14	事実確認 (～でしょ)		30	提案・同意 (どう? そうだね)
	15	指摘 (こうだよ・違うよ)		31	つぶやく
	16	提案・同意 (どう? そうだね)			

※高橋 (2022) より転載

## 3. 結果

上記の方法で、200X 年 4 月～200X+1 年 3 月の期間のうち 20 日間 (月に 1～2 回) 参与観察を行い、データ収集した。

現段階での結果は以下の通りである。

### ① 保育士と子どものやり取りの変容

絵本の映像 (I～III 期) の行動の変化を捉えてみるため、表 1 のカテゴリーを使用し、行動コーディングシステムで分析した結果は以下の通りである。3 つの時期のタイムチャート (図 1～3) を比較すると、絵本のやり取りの継続時間と行為のレパートリーが増加した。III 期に子「保育士に触れる」行為が現れたり、保育士の言語「質問する」「事実確認」「指摘」といった子ども向けの言葉の種類と回数が増加した。反対に、子「どこか見る」行為は減少している。

さらに分析したデータから、子どもと保育士の行為が同時に行われた行為の回数と時間 (同時生起性) では、子「操作対象を見る」—保育士「操作対象を見る」の増加が見られた。

しかし、どちらか一方の行為の直後にもう一方が行った行為の種類と回数 (事象連鎖) に関しては、変化が見られなかった。

### ② 子どもとのやり取りに対する振り返りの変化

保育士 B に、調査者と一緒に映像を見ながら半構造化インタビューを実施した。視聴した映像ごとに、保育士 B が A の行動をどのように捉え、A とのかかわりにおける自身の戸惑いの変化や振り返りを整理した (表 2)。

A の行動について、保育士 B は、I 期では、A が保育士 B のはたらきかけに対し、なじみのある言葉だけに反応を見せていたと受け止

めていた。Ⅱ期になると A の方から保育士 B にはたらきかけ、保育士 B の反応を待つようになり、さらにⅢ期では A が保育士 B を意識しているように受けとめていた。

Ⅰ期にみられた保育士 B の A とのかかわりに対しての戸惑いは変化し、Ⅲ期には A との距離が近くなったと感じたと振り返っている。

表 2. 映像を見た保育士 B の振り返り

時期	Aの行動理解	保育士Bの振り返り
Ⅰ期	他の玩具で遊びたいのかもしれない/目で見ていなくても、耳で聞いている/なじみのある言葉は振り向く	Aが一人で遊ぶことが多かったので、どんな材料でもいから投げかけてみてやり取りできるものがないか探っていた
Ⅱ期	自分で絵本を開きたい/自分のペースで絵本をめくりたい/こちらの反応を期待して待っている	Aが選んで持ってきた本を読んだらどんな反応かと思って読もうとしたら、私が開くの嫌がり自分で本をもって開き始めた。でも、途中で読んでいるAの真似をしてみたら、こちらの反応を待っている様子が見られ、1ページめくるとこちらを見ている。一緒に遊べた感じが持てた。
Ⅲ期	言葉が出て会話になってきた/こちらの顔を見て問いかけている	Aはこちらを意識していて、Aとの距離も近くなったように思う

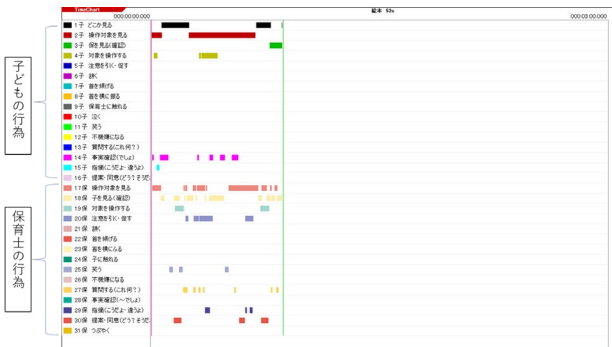


図 1. 映像 (Ⅰ期) タイムチャート

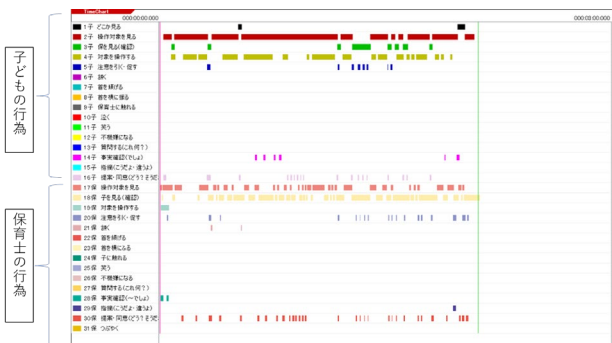


図 2. 映像 (Ⅱ期) タイムチャート

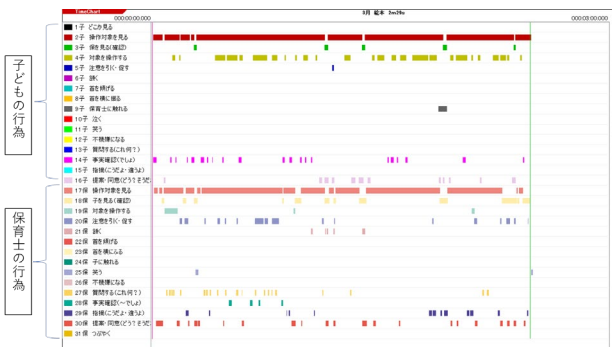


図 3. 映像 (Ⅲ期) タイムチャート

#### 4. まとめと今後の課題

今回、保育士が社会性の発達に配慮が必要な子どもと戸惑いながら向き合い、試行錯誤しながらかかわり続けたプロセスを、保育士と子どものやり取りの映像とそれに対する保育士の振り返りを3つの時期に分けて分析を行った。

結果で示した内容を検討すると、特徴的だったのがやり取りの継続時間や保育士と子どもの行為のレパートリーの増加で、それは、保育士と子どもの関係が安定してきたことが推測された。そのことは、保育士も子どもが自身の反応を待つようになったと受けとめていたこと、さらに子どもとの距離が近くなってきたことを振り返りの中で実感していることから裏付けられた。

次に、保育士の子どもへの言葉掛けの種類と回数の増加、子どもから保育士に触れるといった行為がみられたこと、子どもがどこかを見る行為の減少からも関係の深まりが推測された。保育士の子どもへのはたらきかけのレパートリーの増加、それに対する子どもの応答や、子どもからはたらきかけといった手応えを感じたことが戸惑いの減少につながったと考える。

今後は、保育士が社会性の発達に配慮が必要と思われる子どもが混乱している葛藤場面でやり取りしている映像とインタビューの分析を突き合わせ、関係発達の特徴、関係発達を促す要因を抽出したいと考える。さらに、保育所で社会性の発達を支えるという保育所独自の生活の中でのかかわりについても考察したい。

#### 付記

本研究は、大妻女子大学人間生活文化研究所の研究助成 (DB2237) 「保育士と子どもの関係発達—社会性の発達に配慮が必要とされる子どもとのかかわり」を受けたものである。

## 引用・参考文献

- [1]滝川一廣. 子どものための精神医学. 医学書院, 2017.
- [2]バーバラ・ロゴフ. 文化的営みとしての発達. 新曜社, 2006.
- [3]鯨岡峻. 関係の中で人は生きる: 「接面」の人間学に向けて. ミネルヴァ書房, 2016.
- [4]角田豊, 福本久美子. 幼稚園における特別支援教育と間主観性—自閉傾向をもつ幼児に対する保育者の橋渡し機能—. 京都教育大学紀要, 2012, No.120, 11-27.
- [5]狗卷修司. 保育者のはたらきかけと自閉症幼児の反応の縦断的検討: 共同注意の発達との関連から. 発達心理学研究, 2013, 第24巻, 第3号, 295-307.
- [6]高橋ゆう子. 自閉症スペクトラム障害の子どもと母親の関係性の変容—RDIを適用した一事例の検討—. 人間生活文化研究, 2022, No3, 62-72.